

R & A USGA JGAゴルフ規則抜粋(2019年1月1日変更)

1. 新名称

1. ペナルティーエリア(旧名称:ウオーターハザード)

水域だけでなく委員会が1打の罰で救済を認めたい区域に設定できる。

例: ブッシュや林など、見つけることや打つことが困難な場所をペナルティーエリアとして設定できる。

救済処置は原則として従来のラテラル・ウオーターハザードと同様ですが、**対岸での救済は廃止**。

また、ペナルティーエリア内の球をプレーする場合、クラブをソールしたり、ルースインペリアを取り除くこともできる。

2. ティーイングエリア(旧名ティインググラウンド)

3. ジェネラルエリア(旧名称:スルーザグリーン)

4. バンカー(従来名称のまま)

5. パッティンググリーン(従来名称のまま)

2. ドロップの方法が「膝から」に

膝の高さからドロップすることになります。低い位置からドロップすることで、救済エリアの中にボールを止めやすくなり、再ドロップなどのさらなる処置をすることを避けることができます。

3. 救済時の計測クラブは「もっとも長い」クラブ

ゴルファーの救済エリアは1クラブレングスや2クラブレングスを計るために、プレーヤーのバックの中で最も長いクラブ(パターを除く)を使って計測。

尚、状況によってクラブレングスを計測するクラブを変更することはできません。**救済処置による短いクラブでの使用不可**。

4. 「2度打ちしても」無罰

2度打ちをした時の1罰打がなくなります。偶然、**不可抗力で2度打ち**したことに罰はありません。そのストロークを1打と数えるだけとなります。

5. 球の搜索時間は「3分」

球の**搜索時間が5分から3分**に短縮されます。このことは紛失球となる可能性が高まるので暫定球をプレーすることが増えます。よってプレーファストとなります。

6. 「再ドロップ」の要件

新規則では、それぞれの救済処置に救済エリアを設けています。(例:カート道路からの救済の場合、救済のニヤレスポイントから1クラブレングス以内でホールに近づかずその障害が避けられる区域を救済エリアと言います)ドロップした球はこの救済エリアに落ち、そしてこの**救済エリアに止まらなければならなりません**。**ドロップした球がこの救済エリア外に出た場合は再ドロップとなります**。

7. バンカーの「ルースインペディメントは除去」可能

球がバンカー内にある場合、ルースインペディメント(木の葉、石などの自然物)を罰なしに取り除くことができる

8. パッティンググリーン上の「損傷箇所を修復」可能に

パッティンググリーン上の損傷箇所(人、動物、乗り物などによって作られたもの)を修復することができる。

例: プレー線上にあるスパイクマークを修復できます。但し、自然に窪んだところは修復できません。

9. プレーした球が「自分やカートに当たっても」無罰

ストロークした球が偶然にプレーヤー自身に当たってしまった場合や自分のキャディや用具、カートに当たっても無罰。球があるがままにプレーします。

10. 旗竿を「立てたままパット」可能

パッティンググリーン上でパットするときに旗竿を立てたままパットすることができます。パットした球がカップに挿している旗竿に当たっても罰はありません。時間節約となるでしょう

11. ペナルティーエリアで「クラブをソール」可能に

ペナルティーエリア(旧ウォーターハザード)の球があるがままにプレーする場合、クラブを地面につけることができる。尚、ルースインペディメントを取り除くこともできます。つまり、ジェネラルエリアと同じ規則でプレーすることができます。

12. バンカーで2打罰を加えたら、「バンカー外にドロップ」可能

バンカーに球があるとき、アンプレアブルの追加の選択肢として、2罰打を加えれば、球とホールを結ぶ線上でそのバンカーの後方のバンカー外にドロップすることができる

13. 球を「動かしたことの罰」が免除可能に

新規則では次の場合に球を動かしたことの罰が免除されます。

- ① 球を探しているときに自分の球を動かした場合
- ② パッティンググリーン上で偶然に球を動かした場合
- ③ 規則に基づいて球をマークする、拾い上げる、リブレースするときに球を動かしてしまった場合

14. ペナルティーエリアでの「救済方法」

新規則の下でペナルティーエリアは原則赤杭と赤線で示されるが、境界線が黄色杭と黄線で示されることもあり、前者はレッドペナルティーエリア、後者はイエローペナルティーエリアとなる。

球をドロップする「救済エリアが変更」になりました

従来のラテラル・ウォーターハザードと同様ですが、球をドロップする救済エリアが若干異なります。

- A ペナルティーエリアの限界線を最後に横切った地点とゴールを結んだ後方線上に球をドロップ。
従来は同エリアの後方であればいくら離れても距離に制限はありませんでした。尚、対岸での救済は廃止。
- B 新規則では後方線上に1点を定めたら、その後方、左右1クラブレンジス以内にドロップします。
- C ペナルティーエリアの限界線を最後に横切った地点から2クラブレンジス以内で、ゴールに近づかない場所でペナルティーエリアの外側が救済エリアとなり球をドロップします。